

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立みなと高等学園

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
人権教育の推進	<p>【学校目標】 生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、自他を大切にす態度の育成及びいじめなどの人権侵害を許さない人権感覚を育む。</p> <p>①生徒がお互いの人権や個性を認め合えるような環境を整え、いじめの早期発見・早期対応に努める。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>②生徒人権委員会活動や「中高生による人権交流事業」への参加を通して、人権意識の高い生徒の育成に務める。〔生徒指導・人権課〕</p> <p>③学校と家庭が一体となった人権教育を推進する。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>④生徒が安心して学校生活を送れるように、校内の相談支援体制図を見直し、連携してサポートできるように校内の支援体制の充実を図る。 〔支援・研究課〕</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		<p>①いじめ防止プログラムを実行し、予防学習の充実に努める。教職員による生徒の「さん付け呼名」の共通理解といじめに関するアンケート調査、個別生徒面談を実施する。(年間3回程度) また、オリエンテーションなどの事前の学習を重点的に行う。(年間3回程度)</p> <p>②南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」へ参加する。(延べ20人程度)</p> <p>③人権教育研修会と人権コンサート又は講演会を実施する。(各1回以上)</p> <p>④校内の相談支援体制図を改正し、生徒への有効な支援につなげるために、要望があれば心理検査等を実施したり、ケース会議を開催したりする。</p>	<p>達成</p> <p>未達成</p>		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		<p>①教職員による生徒の「さん付け呼名」を研修や会議で共通理解を図り、周知徹底する。いじめに関するアンケート調査と個別生徒面談を実施し、いじめの早期発見と教職員への相談を促す。いじめの認知については、学校いじめ対策組織で組織的に判断する。</p> <p>②人権委員会活動の一環として南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」に参加し、他校生と交流を深める。</p> <p>③保護者・教職員を対象とした人権問題研修会や生徒・保護者・教職員を対象とした人権コンサート又は講演会を実施する。</p> <p>④-1 校内支援コーディネーターの統括のもと、各学年の支援・研究課員が学年主任と連携して、学年会等での様々なニーズの把握に努める。必要に応じてケース会を開き、対応策を共有できるようにする。</p> <p>④-2 スクールカウンセラー事業を活用する。</p>	<p>①いじめ防止プログラムにあるところのアンケート(いじめに関するアンケート)を9月に実施。4月の職員会議の「さんづけ呼称」の徹底を確認した。ゆる★トークウィークと題した個別生徒面談を実施し、傾聴的共感的面談を行った。</p> <p>②南部ブロック生徒部会に現在のところのべ2名の生徒が参加している。</p> <p>③前期保護者教職員人権研修会は、脳の特性の違いによる整理整頓術を学んだ。10月には人権コンサートを実施予定。</p> <p>④校内の相談支援体系図を改善し、周知した。また、依頼のあったクラスでのケース会の開催等も行い、有効な手立てについての取り組みも実施でき、継続中である。</p>		
キャリア教育の充実	<p>【学校目標】 生徒個々の資質や適性に応じ、職業能力や意欲等を高める指導を系統的・組織的に実施し、社会的</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		<p>①とくしま特別支援学校技能検定の4分野(ビルメン、接客、介護、ICT)全てに参加する。各分野合わせて延べ100人が受検する。</p>	<p>達成</p>		

<p>・職業的自立に結びつける指導を推進する。</p> <p>①各種技能検定にチャレンジすることで、技能の習得を図るとともに、働く意欲や態度を育て、自己肯定感が持てるように取り組む。 〔支援・研究課〕</p> <p>②新型コロナウイルス感染状況等に応じて適切な対策を取り、可能な限り生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験を実施するとともに、生徒・保護者、関係機関等と共通理解を図り、最適な進路選択ができる。 〔進路指導課〕</p> <p>③新型コロナウイルスの感染状況により、電話連絡・職場訪問を行い、適宜卒業生へのアフターフォローを実施することにより、進路先での定着を図る。〔進路指導課〕</p> <p>④就業についての知識や理解を深め、新型コロナウイルス感染症の対策をとりながら、保護者が進路や卒業後の生活について研修する場を提供する。〔総務・環境課〕</p>	<p>②就業体験2回以上。進路説明会1回（各学年の保護者対象）。拡大進路相談（2年生の生徒と保護者対象）を個別に実施。進路便りを年間12回発行する。</p> <p>③令和3年度卒業生の進路先（県内）を全て訪問する。</p>	<p>未達成</p>	<p>活動計画</p> <p>①とくしま特別支援学校技能検定の4部門に生産サービス科と流通システム科の生徒を中心に参加して授業の成果を発揮する。上位級取得に向けて放課後等に練習期間を設定し、積極的な参加を促す。</p> <p>②関係機関等と情報交換を行いながら状況を把握し、進路指導課が中心となって、HR担任や保護者、事業所等と綿密に連携して就業体験を計画・実施するとともに、生徒や保護者のニーズに応じた、進路に関する相談会を実施する。</p> <p>③定期的に卒業生の進路先を訪問するとともに、進路先事業所や支援機関から状況を確認しながら適宜対応し、必要に応じて関係機関を交えたケース会議を実施する。</p> <p>④茶話会（飲食なし）で、障害年金の申請について講師を招き研修の機会を設定する。卒業生の保護者からも話を聞く場を持つ。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①とくしま特別支援学校技能検定の4分野（ビルメン、接客、介護、ICT）の全てにおいて、順次参加している。計画に基づいて実施予定。</p> <p>②2、3年生の前期就業体験、全学年の校内実習、1年生の事業所見学会、3年生の夏期就業体験を実施。適宜、進路相談についても実施。3年生の進路決定を行う夏期就業体験の後半に、コロナ感染拡大の影響を受け、9月以降に延期となった実習が出たため、適切な時期を相談の上実施予定。</p> <p>③令和3年度卒業生については3ヶ月目のアフターフォローを実施、その他適宜関係機関と情報交換を行いながら必要に応じてアフターフォローを実施している。</p> <p>④令和4年12月17日（土）に本校にて社会保険労務士の井後伸一様を講師に招き実施する予定。</p>		
<p>個別の指導計画の効果的な活用</p>	<p>【学校目標】 生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し実践することで、きめ細かい指導及び支援を組織的に推進する。</p> <p>①生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、校内研修や事例検討を活用して、適切な支援の手立てや環境設定を考えられる教員の専門性の向上を図る。 〔支援・研究課〕</p> <p>②生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、授業時間数を最大限確保する。 〔教務課〕</p> <p>③新学習指導要領について各教科で内容確認を行う時間を計画し、年次進行2年目（令和5年度）に向けての準備を整える。 〔教務課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①校内の希望研修を6回設定し、すべての教員が2回以上参加する。</p> <p>②教務課会で、授業実施時数を毎月確認することで、バランス良く授業消化が行えるようにする。</p> <p>③放課後や、長期休業中に研修できる時間を年間2回程度確保する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 事例検討や情報交換、ICT機器の活用等、ニーズの高そうな内容を希望研修として取り上げる。</p> <p>①-2 演習を取り入れたり、授業に活用できる実践的な内容を取り入れたりすることで、教員の研修への参加意欲を上げられるように工夫する。</p> <p>②各部署と行事の調整を行い、授業時間の確保に努める。教務課内で授業実施時数を確認しながら振替授業の計画を行う。</p> <p>③-1 新学習指導要領の変更点等について、各教科内で共通理解を図る。 ③-2 時間割上の名称を検討する。 ③-3 新年度に向けて、時間割作成の準備や授業体制を整える。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>達成</p> <p>未達成</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 夏休みの希望研修で事例検討を含めた研修を行った。目標の立て方等についても講義を行い、後期の目標設定に役立つようにした。ICTの活用についての研修を冬休みに実施予定である。</p> <p>①-2 校内の希望研修では、毎回グループワークを取り入れ、教員が意欲的に参加できるようにし、活発な意見交換が見られた。今後も同様に取り組む予定である。</p> <p>②コロナ禍ではあるが、授業時間数の確保に最大限努めている。実施時数も行事予定が入ってきている部分は調整しながら振替授業を進めているところである。</p> <p>③-1 8月に各教科で1回目を実施済み。2回目を12月に予定。 ③-2 関係教科で検討予定。 ③-3 後期の課会で少しずつ検討を行っていく予定。</p>	<p>総合評価 (評定)</p>		

		評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
センター的機能の充実	<p>【学校目標】 専門性の向上に努め、高等学校及び幼稚園、小・中学校に在籍する発達障がい児に対し積極的な助言及び支援を推進するとともに、保護者・地域・関係機関と密接に連携し信頼される学校づくりに努める。</p> <p>① 県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育に関する相談支援や、自立活動についての内容を含めた研修支援を行う。 〔支援・研究課〕</p> <p>② 信頼される学校づくりのため、積極的な情報発信を推進する。 〔情報課〕</p> <p>③ 保護者との連携協力を推進する。在校生の保護者同士の交流を含めた活動を実施する。 〔総務・環境課〕</p>	<p>① 外部依頼の教育相談件数30件以上、研修会等への支援回数5件以上。発達障がい教育研究会（第1回）の参加数が50人。</p> <p>② 行事等のホームページ更新数100回以上。</p> <p>③ PTA 通信を年間2回発行し、事業所見学もしくは説明会を1回実施する。</p>	<p>達成</p> <p>未達成</p>	<p>総合評価 (評定)</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①-1 県内の高等学校や関係機関に対して、ホームページ等を活用して、相談支援や研修支援について広報活動を行う。</p> <p>①-2 県内の学習支援員配置校に対して、授業参観等を実施し、指導・支援のサポートを行う。</p> <p>①-3 県内の高等学校等の教員を対象にした発達障がい教育研究会（同時開催：特別支援教育研修会）を12月に計画・実施する。</p> <p>② 各課や教科担任等が、積極的にホームページを通じて情報発信できるように、ICT 機器の設備を充実できるように努めるとともに、機器の使い方や発信方法等について研修する機会を設定する。</p> <p>③ PTA 活動の一環として、PTA 通信の発行、バザー（リサイクル制服）、事業所見学を保護者と共に計画し実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 計画通りに広報活動を行うことができ、継続中である。</p> <p>①-2 依頼のあった学校へ出向き、授業参観等を通して、個別の指導計画の作成や支援について、実践的なサポートを行っている。</p> <p>①-3 本年度の研修計画をたて、文書を作成し、関係機関へ配布予定である。12月の実施に向けて、準備中である。</p> <p>② 各分掌、各行事等の担当者においてホームページの更新を適宜実施した。（9月14日現在74回更新）</p> <p>③ バザー（リサイクル制服の販売）は、みなまつり（10月1日）の販売参加の予定、PTA 通信の発行は、みなまつり終了後予定。事業所見学はコロナ感染拡大の状況をみながら進路課と相談する。</p>	<p>総合評価 (評定)</p>		
特別活動の推進	<p>【学校目標】 学校行事・生徒会活動・部活動など望ましい集団活動を通して、心豊かな人間の育成を図るとともに、交流活動を推進し地域や人と人とのつながりを大切にする態度を養う。</p> <p>① 感染症対策を充分に行った上で、学校行事を実施する。 〔特別活動・保健課〕</p> <p>② 作業や交流活動を通して奉仕の精神を養う。 〔特別活動・保健課、教科担任〕</p> <p>③ 安全で安心できる学校づくりに務める。〔特別活動・保健課〕</p> <p>④ ハナミズキゾーン内の関係機関との連携を深め、情報を共有する。 〔管理職、特別活動・保健課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>① 文化祭と球技大会を実施する。</p> <p>② 施設訪問・交流を年間50回以上行う。</p> <p>③ 地震・津波、火災避難訓練を年間6回以上実施する。</p> <p>④ ゾーン関連の行事（乳児院祭りや合同避難訓練・合同避難訓練反省会）へ生徒・教職員が参加する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>達成</p> <p>未達成</p>	<p>総合評価 (評定)</p>		
		<p>活動計画</p> <p>① 文化祭では内容を精選し、感染症対策を充分に明確にした上で実施する。球技大会は、実施種目や生徒の参加の仕方を検討し、運動に親しむ態度を養う。</p> <p>② 環境園芸、ビルメンテナンス、福祉サービスの授業や、部活動での奉仕活動や利用者との交流を図ったり、その準備をしたりし、ホームページに活動の様子を紹介する。</p> <p>③ 毎回異なった想定地震・津波避難訓練や近隣施設（ハナミズキ・乳児院）との合同火災避難訓練を実施する。</p> <p>④ 生徒・教職員へ、イベントボランティア参加の呼びかけを行ったり、避難訓練後の合同反省会を主催したりして、防災担当以外の教員が参加できる機会を設定する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 保護者のみ限定公開の予定で準備を進めている。表現の部（体育館）、展示・販売の部（校舎内）で行う。体育館には全校生徒と3年生の保護者のみ入場する。</p> <p>② 各教科や行事の担当者を中心にホームページに活動の様子を紹介している。</p> <p>③ 8月末現在で、第1回地震津波想定避難訓練と第1回ゾーン連携火災想定避難訓練を実施した。</p> <p>④ 毎月のゾーン連携会議で行事やイベントの情報を共有し、連携が可能な場合に協力できるような体制をとっている。10月にはみなとクリーン（清掃ボランティア）がハナミズキのエアコン清掃に入る予定である。</p>	<p>総合評価 (評定)</p>		

業務改善	【学校目標】 業務改善やワークライフバランスの推進に努め、効率がよく、働きやすい職場づくりを推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価
			①年間を通してのべ20%の職員が、変形労働時間制を利用する。 ②学習系 ipad を活用して教職員が作成した教材をデータベース化する。	達成 未達成
	①ワークライフバランスの推進に努め、メリハリのある勤務体系の構築を図る。〔管理職〕 ②教材のデータベース化を図り、活用を促進することで、教材研究の効率化を図る。〔情報課〕	活動計画	活動計画の実施状況	
		①職員が利用しやすく勤務時間管理もしやすい変形労働時間制を計画し、活用を推進する。 ②各教科会でデータベースの活用について共通理解を図り、教育内容の充実・効率化を推進する。	①前期の変形労働時間制では、8名の職員（全体の15%）が利用し夏季休業中に休日のまとめ取りをした。後期にも希望を募って実施予定である。 ② Microsoft Teams や MetaMojiClassRoom の授業活用を通じて教材や情報の積極的な共有を行いデータベース化を進めている。	

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった